

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571900309
法人名	医療法人 朋詠会
事業所名	グループホーム コスモス苑
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1116番地 (電話)0985-30-7855
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20 年 10 月 30 日

【情報提供票より】(20年 9月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 17 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	17.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4)利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	11 名	男性	3 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 90 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	獅子目整形外科医院 綾外科病院 綾立元診療所 田口歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心地に近く、住宅や農家が点在する静かで利便性に恵まれた環境の中にホームは立地している。母体病院を中心に、最近併設された小規模多機能と連携して、質の高いホームを目指し組織をあげて日々取り組んでいる。ホームには家族の来訪が多く、家族会も年3回~4回開催され、家族には利用者の暮らしぶりや健康状態を毎月きめ細かに報告する等家族との絆を深めている。また、人材育成に力を入れ、法人内外の研修に積極的に参加してレベルアップを図っている。利用者の平均年齢は90才と高齢ではあるが、明るく親切な職員に支えられ元気で安心して暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果を踏まえ、課題であった同業者との交流等について全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義や目的を管理者が全員に伝え、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族の代表、役場の担当者、公民館長等幅広い立場の人が参加して2か月に1回開催している。会議では、運営状況の報告や空室の対応、避難訓練の実施方法等について話し合い、その意見をサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を年3回~4回開催して、家族の意見や不満を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に職員が必ず声をかけ、意見等が出やすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の公民館の行事に参加したり、地域の消防団との連携や、保育園との交流など取り組まれている。今後さらに地域住民の一員として、自治会加入の検討や近隣の人達との交流も進むことを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、職員全員で考えた事業所独自の理念を作りあげている。地域密着型サービスの役割についての考え方が理念に反映されていない。		これまでの取り組みを活かしさらに利用者が地域の中で地域住民と交流しながら、安心して暮らし続けることができるよう、地域密着型サービスの意義について理念に盛り込んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念について掘り下げて話し合い、理念を共有して日々のケアに活かしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭に利用者の作品を出品したり、祭りや近くの保育園児との交流等に努めているが、自治会への加入や老人会、近隣の人たちとの交流等が若干少ない。	○	開設より6年目となり着実に地域とのつながりを築いており、今後さらに地域住民の一員として、自治会加入の検討や近隣の人達が立ち寄り、遊びに来たりする間柄となり、いざという時にかけつけて助けてくれるような関係を築いてほしい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義や目的を管理者が全職員に伝え、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族の代表、役場の担当者、公民館長等幅広い立場の人が参加して2か月に1回開催している。会議では、運営状況の報告や空室の対応、避難訓練の実施方法等について話し合い、その意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当者は協力的で、運営上の課題や情報等について気軽に相談できる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月利用者の暮らしぶりや健康状態等を詳しく日記として記録し、写真を添えて文書で報告している。又、コスモス苑便りも毎月発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回～4回開催して、家族の意見や不満が表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に職員が必ず声をかけ意見等が出やすい雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職を最小限に抑える努力をしている。離職者や異動は少なく、利用者は馴染みの職員に支えられ安心して生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れ、法人内外の研修に積極的に参加させている。また、研修の結果は職員会議等で全員に報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前にホームを見学してもらったり、職員が自宅や病院等を訪問して徐々に馴染めるように配慮し、家族と相談しながら安心して利用できるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に暮らしながら、生活の技や言葉づかい等多くの事を学び、お互いの信頼関係を築き共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日々の行動や表情の中から希望や思いを把握できるように努めている。また、家族とも暮らしの希望等について話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採り入れ、職員間でも充分話し合い、本人や家族の意向や希望を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを確実にし、介護計画は3か月に1回定期的に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や外泊、外出等の支援を柔軟に行っている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内に利用者がそれぞれかかりつけ医を持っており、往診も可能な関係が築かれている。また、母体病院でも気軽に相談できる体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、母体病院との協体制度もあって、本人、家族、かかりつけ医等と具体的な話し合いを行い、早い段階から方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の人格や誇りを損ねることがないように、丁寧な言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報保護法の理解にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて、自分のペースで自由に暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望に配慮して、季節の食材を採り入れた食卓を囲んで、利用者と職員が同じ料理で楽しく食事をしている。後片付けを手伝っている利用者もいた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。又、入浴を拒む利用者もいるが、無理強いすることなく、時間をかけて意向にそった支援を行っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	町の文化祭への作品づくりや生け花教室、ちぎり絵、洗濯物たたみ等喜びや張り合いのある生活が出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高齢化が進み、車椅子利用者が多くなったことから、思うように外出が出来ていない状況にある。	○	高齢化が進み、外出支援が厳しくなりつつあるが、歩行困難なケースでも車椅子を利用しての散歩やドライブ、買物等出来る範囲で戸外に出かけることができるよう支援をしてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。災害時には、地域消防団の協力が得られるようにしているが、近隣の住民への協力体制までにはなっていない。		避難訓練に近隣の方々に参加いただいたり、日ごろから協力が得られるよう働きかけをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量はチェック表で毎日管理しており、母体病院の管理栄養士の指導も受け、バランスの良い食事の内容となっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は全体的に余裕のある造りで、天窓からは明るい光が差し込み、フロアにはソファが設置され、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのダンスや椅子、家族の写真、ラジオ等多く持ち込まれ、各部屋に洗面台が設置される等、居心地よく暮らせるように工夫がされている。		